

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

Osaka National Hospital

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターニュース
News

No.82

令和6年5月

このニュースは、年4回、
大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。
詳しいお問い合わせは
地域医療連携室までお寄せください。



目次

地域医療連携室より

- ・脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内…… 2
- ・新任及び退職医師のお知らせ …………… 3

病院のトピックス

- ・松村泰志院長 令和6年新年度のご挨拶 …………… 4
- ・平尾素宏先任副院長 就任のご挨拶…………… 5
- ・渋谷博美副院長 就任のご挨拶…………… 6
- ・上田恭敬統括診療部長 就任のご挨拶…………… 7
- ・水戸祥江看護部長 就任のご挨拶…………… 8
- ・井上耕一循環器内科科長 就任のご挨拶…………… 9
- ・岡崎周平脳神経内科科長 就任のご挨拶…………… 10
- ・濱直樹肝胆膵外科科長 就任のご挨拶…………… 11

独立行政法人 国立病院機構 **大阪医療センター**

地域医療連携室 令和6年5月発行 82号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

TEL.06-6946-3516

☎ 0120-694-635

FAX.06-6946-3517

[HP] <https://osaka.hosp.go.jp>

[E-mail] 408-comonh@mail.hosp.go.jp

～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信



令和6年新年度のご挨拶

私は令和3年4月から当院に参りましたので今年度で4年目を迎えます。昨年度末に三田副院長、西本看護部長等の病院幹部が退職され、今年度から新しい幹部体制で臨んでいます。振り返りますと、この3年間はコロナ感染拡大への対応にかなりの力を注いでまいりました。コロナ感染が治まった分けではありませんが、今後は通常医療の中に組み込み、粛々と対応することになります。このように令和6年度は、大きな区切りの年となりました。当院は、これから新たなフェーズに入っていくことになります。

当院は、ほぼ全ての診療科を持つ急性期総合病院です。科によりスタッフの多い少ないはありますが、どの科においても、科長等の指導的立場の先生は、それぞれの領域で名前が知れた一流の先生方ばかりです。院長として、この点では誇らしく思っています。

人口高齢化が進み、高齢の患者さんが増えています。高齢の患者さんは、負担の大きい治療をすると、ターゲットの治療がうまくいっても体力が消耗して全体的には良くない結果になることがあります。当院では、全ての科で内視鏡手術やロボット手術を取り入れ、小切開による侵襲度の少ない手術を行っています。また、栄養管理や術後のリハビリなどを積極的に行い、基礎体力の回復に努めています。高齢の患者さんは同時に複数の病気を持つことが珍しくありません。最近の薬は切れ味が良い分、併発疾患によっては重大な副作用を起こすことがあります。薬の選択ひとつをとっても考えるべきことは沢山あります。当院は、大学病院などと比べるとコンパクトであり、その分、科の間の壁は低く、科の間で協力しやすい利点があります。それぞれの患者さんに必要な専門医が集まり、協力して治療しますので、併発疾患をお持ちで対応が難しそうな患者さんであっても、しっかり対応できることが当院の強みです。

当院は、HIV診療、血友病診療の近畿ブロックの拠点病院に指定されています。それぞれの本体の疾患には、感染症内科、血友病科で対応していますが、併発疾患をお持ちのことが多いですから、その場合には、当院の強みを生かした全科的対応をしています。また、災害拠点病院でもありますので、救急医療にも力を入れています。その他、各科で強みとなる疾患領域がありますが、これらは、それぞれからご案内いただけるものと思います。

新年度となり、新たな気持ちでがんばって参りますので、ご指導、ご支援をよろしくお願いたします。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
院長 松村 泰志



前任副院長 就任のご挨拶

平素より先生方にはお世話になっております。四月より国立病院機構大阪医療センター
前任副院長を拝命しました平尾 素宏です。臨床専門は、胃や食道の上部消化管疾患にたい
する外科診療です。本籍は岡山県赤磐郡（現在の岡山市東区）ですが、生まれも育ちも兵
庫県です。令和元年春より統括診療部長として、また令和三年より後任副院長として勤務
し、外科総括部長を併任しています。

最近の社会の高齢化に伴い、併存疾患を持つ患者さんも増えています。大阪医療センタ
ーは高度総合医療施設として各診療科や院内各部署の協力を得て、様々な合併症を持つ患
者さんにも最適な治療を行える体制を整えています。

現在、医学の進歩とともに、医療も日々変化しています。しかし、我々臨床医の基本姿
勢は、「治療を必要とする目の前の患者さんのために最善の治療方針を熟考し、治療を施す」
ことで、変わることはございません。その「最善の治療」を施すためにも、大阪医療セン
ターでは、標準治療の確立と先進医療の開発を目的として、多くの臨床研究・治験を行っ
ています。今後も引き続き臨床研究も推進してまいりたい所存です。

そして、大阪医療センターという第一線の医療機関が初期研修医や専攻医（後期研修医）
の教育の一端を担うことは、優れた臨床医を育成するうえで非常に大切だと思っています。
そのため、初期研修医・専攻医と各診療科の専門スタッフ医師たちが、ペアを組んで患者
さんの診療にあたっています。また、当院は充実した初期研修プログラムと多くの後期専
門研修プログラムを有し、スペシャリスト臨床医を育てていくよう努力しています。

最後に、我々は地域医療施設との連携をさらに深め、外来入院患者数のさらなる増加を
目指します。前述しましたように、当院の診療の特徴として、合併症を持つ患者さんも積
極的に受け入れていることがあります。院内各科や各部署の協力を得て治療成績を向上さ
せ、全国で患者信頼度・満足度トップの病院に築き上げていきたいと考えています。今後
とも、何卒よろしくごお願い申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
前任副院長 平尾 素宏



副院長就任のご挨拶

4月より大阪医療センター副院長を拝命いたしました渋谷です。

昭和63年に兵庫医大を卒業後、大阪大学麻酔科に入局し、1年目は大阪府済生会中津病院に配属されました。麻酔中、人工呼吸器ではなくバッグを手で揉み、自動血圧計ではなく水銀柱血圧計で手動にて測定、その合間に麻酔記録も手書きでした。ガラスシリンジでの薬液投与では、気づけばシリンジの内筒がすべり薬液が空中散布になっていたこともあり、1年間でしたが麻酔の基礎の基礎を学びました。次の2年間は阪大病院で基礎固め研修のつもりが、連日応用麻酔症例を経験させていただきました。あの頃、指導医から教えていただいた多くの言葉は、今、自分の言葉に替えて若手麻酔科医に伝えています。その後、大阪警察病院、西宮市立中央病院での勤務を経て、国立大阪病院（現在の大阪医療センター）に異動となりました。

大阪医療センターでは平成29年に職員研修部長に就任し、初期臨床研修医が無事研修を修了できるよう、母（姉に例えるにはやや厳しい年齢でした）のように、愛情たっぷりで寄り添いました。レポート提出期限が近づくと励まし、研修医レクチャーでは一緒に学びました。

そして、令和3年に統括診療部長を仰せつかりました。今度は、診療科の医師たちとの距離がとて近くなりました。私は麻酔科医ですので、手術室でお会いする外科系の先生方とは話す機会も多かったのですが、外科系以外の診療科の先生方とお話するようになったのは、統括診療部長になってからではないかと思います。コロナ感染が国内に拡大している頃、当院では職員の健康チェックを目的に、統括診療部長として、毎日各診療科の部長から体調報告を院内メールで受けておりました。メールには、体調報告に加え、診療科の近況なども書かれており、診療科のことや部長の先生方の人柄もわかり、大変な時期ではありましたが、診療科の先生方との距離は随分近くなりました。

高齢化が進み、多くの合併症をお持ちの患者様が増えています。大阪医療センターは、高度な医療技術を持つ専門性の高いスタッフが揃っております。診療科間の垣根がとて低く、合併症をお持ちの患者さまにも速やかな対応をさせていただいております。

これからも病院のモットーであります「正しく、品よく、心こめて」最良な医療を地域の患者さまに提供し続けていきます。

今後とも、大阪医療センターをよろしく願いたします。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
副院長 渋谷 博美



統括診療部長 就任のご挨拶

4月より大阪医療センター統括診療部長に就任いたしました上田です。これから、よろしくお願いたします。1990年に大阪大学医学部を卒業し、翌年より2015年まで大阪警察病院で勤務し、研修医から部長職までを経験する中で、病院の改革・発展過程を見てきました。この間に電子カルテの導入や救急外来（ER）体制の改革にも関わってきました。その後、2015年4月に当院へ循環器内科科長として赴任しました。長年に渡り循環器の立場から救急医療に関わってきましたが、2020年からは当直委員会委員長として、当院の時間外救急診療、当直業務に関わってきました。

当院は各種専門領域の診療科がそれぞれの領域において、高度に専門的な医療を提供し、臨床研究においても多大な実績を築き上げています。しかし、地域から当院に求められている医療は、それらの高度専門医療だけではなく、よりコモンな疾患ではあるが救急の対応を要する患者さんの診療も含まれていることを実感しています。当院の救急診療体制には、まだまだ多くの課題が存在しますが、当院が、患者さんおよび地域の医療機関から頼られる存在となるためには、少なくとも窓口としてはあらゆる患者さんを断らずに一旦は受け入れて、当院で適切な医療を提供するか、適切な医療を提供できる他の医療機関へ繋ぐ役割を果たすことが重要であると考えています。これは救急診療に限らず、日常診療にも言えることで、患者さんおよび地域の医療機関からより近い存在になれるよう努力していきたいと思えます。

このたび診療部を統括する立場となりましたので、働き方改革も実現しつつ、当院で働くすべての医療者が快適に働きながら、あらゆる患者さんと医療機関の信頼を獲得するためにはどうすればよいのかを、一つ一つ議論しながら課題を解決していきたいと思えます。その他のことについても、院内院外を問わず、できるだけ多くの方々の意見を聞いて議論する中から最適な解決策を考えていきたいと思えますので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いたします

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
統括診療部長 上田 恭敬



看護部長就任のご挨拶

4月1日付で大阪医療センター看護部長を拝命いたしました水戸でございます。よろしくお願いいたします。

私は、国立京都病院（現在の京都医療センター）で看護師としてスタートし、その後看護師長として2施設、副看護部長として3施設、看護部長として1施設で勤務した後、病院を離れ、近畿グループ、次に国立病院機構本部で勤務し、この度、4年振りに病院へ戻ってまいりました。大阪医療センターは、看護師長として6年半、副看護部長として1年間勤務していましたので、3度目となります。看護管理者として多様なことを経験し、成長する機会を与えてくれた施設であり、忙しい中にもやりがいを得ることのできた施設でしたので、看護部長として勤務する機会を得られたことを嬉しく思っています。

大阪医療センター看護部は、経験の浅い看護師も多く、専門的知識・技術の習得過程にある看護師の多い組織です。看護の専門性の面では成長過程にありますが、仕事に対する熱意、看護に対する思いは強く、常に患者さんを中心に考え、患者さんの思いに寄り添い看護を実践しています。若い看護師の不足するところは、先輩看護師がカバーし、チーム全体で協力し合うことにより、患者さんにとって最善の看護を提供できるように努めています。

患者さんの納得・満足の得られる看護を提供し、地域の方々に信頼される病院であり続けるために、更に一層努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
看護部長 水戸 祥江



循環器内科科長 就任のご挨拶

平素より格別のご高配を賜り、心より感謝申し上げます。

私、井上 耕一は、この度、国立病院機構大阪医療センター循環器内科の科長に就任いたしました。この責任重大な役割を仰せつかり、一層の努力を重ねて参る所存でございます。

何卒、変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2021年に桜橋渡辺病院より赴任し、循環器内科の不整脈センター長を務めてまいりました。本年度より、循環器内科の組織を改変し、専門性を高める方向で治療分野別にセンター化し、サブグループを新設しました。具体的には、不整脈センターに加え、心不全センター（安部センター長）、心血管インターベンションセンター（池岡センター長）を設置し、これら3つの専門領域に注力してまいります。そして、各分野において高い専門性を持つスペシャリストたちが、それぞれの力を最大限に発揮できるよう、環境整備に努めてまいります。

今年、新しいハイブリッド手術室の稼働開始、CCU（循環器内科管轄の集中治療室）の増設・拡充、さらには経皮的大動脈弁置換術（TAVI）の開始と、当院では多くの新しい取り組みが予定されております。また、私の専門分野であるカテーテルアブレーションの領域に関しますと、画期的な新治療法であるパルスフィールドアブレーション法臨床使用を当院の不整脈センターで開始しました。これは世界的な注目を集める治療法であり、日本では初めて、欧州と治験を除くと世界でも初めての臨床使用です。これらの最新治療技術を、最良の環境で患者様にご提供できるよう、松村院長のもと、全スタッフが一心となって取り組んでおります。

国立病院機構 大阪医療センター 循環器内科

循環器
ホット
ライン

06-6946-3544
循環器疾患24時間対応します。

不整脈センター
アブレーション
埋込み式不整脈デバイス
経皮的左心耳閉鎖術

心不全センター
心不全治療
心臓リハビリ
弁膜症SHD

心血管インターベ
ンションセンター
PCI
EVT

さて、当科は個々の医師の専門性を高める方向に舵を切っておりますが、引き続き最も力を入れているのは、循環器疾患の救急治療です。私の在職三年の間に「大阪医療センターは敷居が高い印象」との声も耳にしましたが、当循環器内科の敷居は高くはございません。当科ではかねており「循環器ホットライン」（医療機関専用直通ダイヤル：06-6946-3544）を設けており、循環器内科医が24時間体制で迅速に対応いたします。松村院長、上田統括診療部長以下、循環器内科19名のスタッフが全力で患者様の治療に当たります。

今後とも、循環器内科をはじめとする当院の医療に対し、ご支持ご指導を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
循環器内科 科長 井上 耕一



脳神経内科科長 就任のご挨拶

2024年4月から国立病院機構大阪医療センター 脳神経内科の科長として就任いたしました岡崎 周平と申します。この場をお借りしまして、簡単ですが自己紹介をさせていただきます。私は、1978年にここ大阪医療センターの分娩室で生まれ、以来40年以上の歳月を大阪で過ごしてきました。2002年に大阪大学医学部を卒業し、大阪医療センターでの研修後、国立循環器病研究センター 脳神経内科でのレジデントを経て大阪大学に戻り、神経救急の臨床で最前線に立ちながら、大学院では脳血管障害に関する臨床研究に従事しました。2013年からドイツのハイデルベルク大学医学部マンハイム附属病院に留学し、2015年に帰国後は、国立循環器病研究センター データサイエンス部にて医師主導国際共同試験の企画や運営に関わりながら、脳神経内科での神経救急診療を継続してきました。この間、脳卒中の遺伝的素因の解明にも取り組み、RNF213関連血管症という新しい疾患概念を提唱しました。その後は大阪大学医学部附属病院に戻り、神経内科・脳卒中科の外来医長、病棟医長を務めると共に、神経救急の教育にも力を注ぎ、研究では電子カルテ連動型EDCシステム（CDCS）を用いた多施設共同脳卒中全例登録システムの開発などに携わってきました。今回の異動に際し、前任者である山上宏先生および永野恵子先生からバトンを受け取り、2024年4月から大阪医療センター 脳神経内科の科長を拝命しました。

大阪医療センターではこれまで脳卒中内科を標榜してきましたが、今後は脳神経内科として幅広い診療を展開してまいります。脳卒中診療においては、経静脈的血栓溶解療法や経カテーテル的血栓回収療法などの超急性期治療に積極的に取り組みながら、脳神経外科との連携を強化し、急性期から回復期への導入まで一貫した医療を提供します。また、てんかんや脳炎・髄膜炎、ギラン・バレー症候群など他の神経救急疾患についても広く受け入れ、パーキンソン病や多発性硬化症などの神経難病に加えて、頭痛、ふらつき、物忘れなどのコモンディーズについても積極的に受け入れ、地域のニーズに応える医療を提供していきます。救急医療に強い当センターの特色を生かしながら、地域の先生方や患者さんから信頼を得られる脳神経内科を目指し、努力してまいります。脳神経疾患の可能性のある患者さんがいらっしゃいましたら、どうぞお気軽に当センターの脳神経内科へご相談ください。

この新たな職務において、皆様とともに医療の質を高め、地域社会に貢献できるよう、精一杯努めてまいります。何卒、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
脳神経内科 科長 岡崎 周平



肝胆膵外科科長 就任のご挨拶

2024年4月1日に新しく肝胆膵外科科長に赴任して参りました濱 直樹と申します。私は1998年に大阪大学を卒業し、大阪大学第二外科に入局いたしました。大阪大学病院にて1年間、1999年より関西労災病院で3年間の外科初期研修を受けました。家庭の事情のため2年間実家と歌山の浜病院にて勤務ののち、2004年から大阪大学大学院において、ラットを用いた肝移植術後拒絶反応に関する研究を行いました。学位取得後は、2008年より兵庫県立西宮病院、2012年から2年間大阪大学医学部付属病院（助教）、2014年には当院である国立病院機構大阪医療センターにて医員・医長として勤務し、2020年からは市立池田病院で医療に従事して参りました。そしてこの度、4年ぶりに当院で再び勤務することになりました。以前に当院で勤務していた時には、中森正二先生・宮本敦史先生のご指導のもと、肝胆膵外科医にとって最重要課題である肝胆膵外科高度技能専門医を取得させていただきました。これからは肝胆膵外科科長として、高度技能専門医取得を目指す修練医の指導にも尽力したいと考えております。

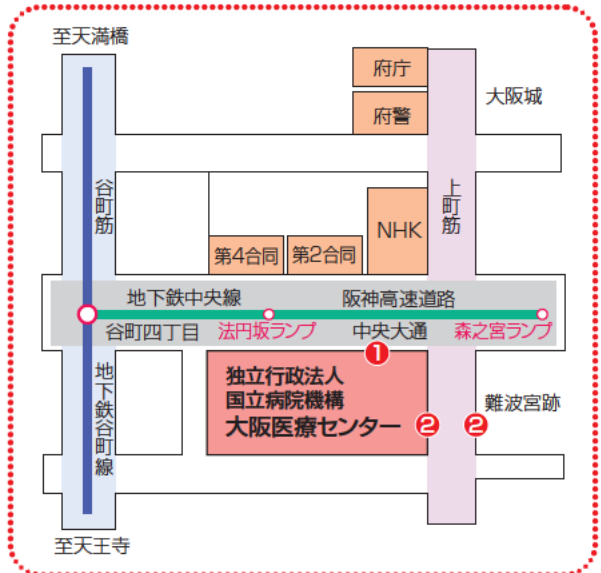
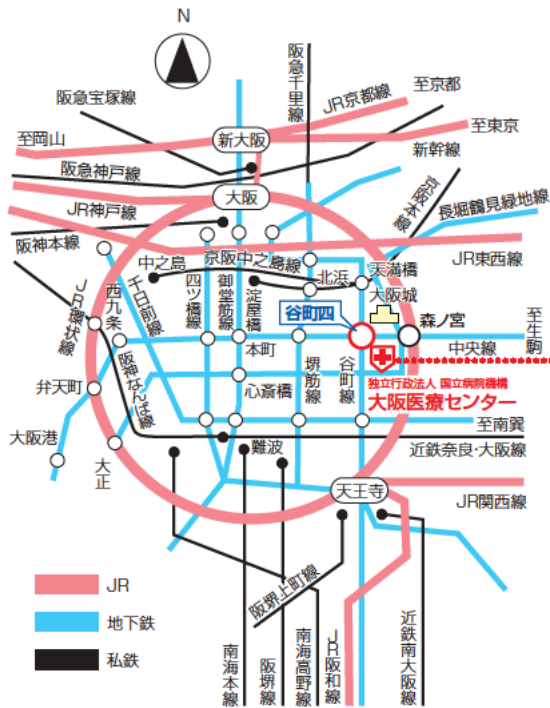
肝胆膵外科では、肝臓癌・胆道癌・膵臓癌といった消化器疾患の中でもとりわけ生存率の低い難治性の悪性腫瘍に対する手術を行っております。この領域の手術は、解剖学的に非常に複雑な脈管走行の把握が必要で、長時間手術となることもしばしばあります。根治性を求めることはもちろんですが、いかに安全に低侵襲かつ確実な手術を行うか、また臓器を切除することによって生じる臓器機能の低下をいかに最小限にするのか、それらを一人ひとりの患者さんの病態に応じて考慮し、最善な医療を提供できるように取り組んでおります。その一つの手段として、従来の開腹手術より低侵襲手術とされる腹腔鏡下手術やロボット支援下手術も導入しております。

しかしながら、肝胆膵領域の悪性腫瘍に対する手術成績は他の消化器疾患に比べても不良であり、手術療法だけで治癒できる患者さんはまだまだ少ないのが実状です。それゆえ、個々の患者さんの治療に際して、消化器内科や放射線科などの他科と綿密に連携を取りながら、カンファレンスを行って最適な治療方針を検討しております。

悪性腫瘍との闘いは困難な道のりではありますが、患者さんに寄り添いながら、病気を治すことだけでなく、患者さんが普段の日常を過ごせるように尽力して参りますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
肝胆膵外科 科長 濱 直樹

交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え
「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。